様式2

平成30年度　自己評価表

鳥取県立鳥取商業高等学校

中長期目標（学校ビジョン）	保護者・地域と連携し、望ましい職業観・勤労観を身につけ、知・徳・体のバランスのとれた次代を担う若者を育てる

今年度の重点目標	1. 鳥商生としての自覚と誇りを持ち、自ら考え、判断し、行動できる力をつける 2. 望ましい職業観・勤労観を身につけ、進路実現に向けて努力する 3. 健康に留意し、学力向上と部活動に励む 4. ビジネス社会及びグローバル社会に必要な力を身につける

年度当初					評価結果　（９）月		
評価項目	評価の具体項目	現状（平成29年度実績等）	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1. 鳥商生としての自覚と誇りを持ち、自ら考え、判断し、行動できる力をつける	【自覚と誇りを持つ】 ・鳥商生であることに自覚と誇りを持ち、規律正しい生活を送っている。 ・校内、校外を問わず、明るい笑顔で気持ちの良い挨拶ができ、制服を正しく着こなしている。	・88%の生徒が鳥商に入学してよかったと回答。（学校生活アンケート） ・95%の生徒が正しい身だしなみを実践、90%が自ら進んで挨拶していると回答している（学校生活アンケート）が、日常的に挨拶できている生徒の数は減ってきつつある。また学校外でも身だしなみを整える意識を高める必要がある。 ・95%の保護者が「鳥商は保護者・地域社会から信頼されている」と回答。（学校評価アンケート） ・93%の保護者が「生徒は挨拶やルール、マナー等社会に通用する意識や態度が育っている」と回答。（学校評価アンケート） ・86%の生徒が学校行事、生徒会活動、部活動に積極的に参加していると回答。（学校生活アンケート） ・92%の生徒が安心で安全な学校生活を送っていると回答。（学校生活アンケート） ・69.8%の生徒が年間を通して無遅刻であった。遅刻回数は1日平均0.75件、1人あたり0.79回。 ・QUアンケートを年間2回（3年生は1回）実施。結果をSCと共有し気になる生徒について個別に相談しながら対応した。SCとの面談件数（生徒、保護者、教員）は延べ146件。	・90%以上の生徒が、商業高校で学ぶ目的意識を高く持ち、鳥商に入学して良かったと思っている。 ・年間無遅刻の生徒が80%以上、一人あたりの遅刻回数が年間0.4回以下である。 ・学校内外を問わず、全校生徒が気持ちの良いさわやかな挨拶が自らできている。 ・学校内外を問わず制服の正しい着こなしができている。 ・地域社会から信頼と信用を得ている。 ・規範意識が高く、社会、学校の規則を守り、場面に応じた言動をとっている。 ・学校行事、生徒会活動、部活動に積極的に参加し、集団に貢献している生徒が90%以上。 ・安心で安全な学校生活を送っていると感じている生徒が90%以上。	・鳥商での学びが将来の職場での仕事や上級学校での学びにどう結び付き活用できるのかを、体験活動をとおして理解し実感できるようにする。 ・日常生活における挨拶、正しい身だしなみ、規律遵守などの指導を継続。 ・学校外での行動や態度が地域社会からの学校全体への信頼に影響することを強く意識させる。	・1年生に対しての商業教育の導入としてビジネス基礎研修を4月に実施。鳥商の学びの形、目指す姿、2，3年生での体験活動などを説明。鳥商で学ぶことと実社会との関連を話し、また鳥商に対する地域からの期待度の高さを伝え、日々の挨拶、身だしなみ、規律遵守が高い評価につながっていることを意識させた。 ・2，3年生に対しては商業学科集会で再度鳥商教育の目的、上級生としてあるべき姿を伝えた。 ・挨拶について上級学年になるとよくできるようになるが学校全体としては十分ではない。また学校外での行動や身だしなみに対する意識をより高める必要がある。 ・7月13日（金）に商業教育フォーラムを開催。水戸商業、浜松商業、宮崎商業を招き鳥商を含めた4校の特色ある取組の発表とシンポジウムをとおして交流を行った。 ・学校活性化事業として岡山東商と倉敷商の定期戦、倉敷商の応援練習を生徒代表が参観し全校で報告会を開催した。学校全体が一体となっての応援は迫力があり自校への誇りが強く感じられ大きな刺激になった。 ・9月末までの遅刻統計は1日平均1.18件、生徒一人あたり0.2回。遅刻連絡カードを活用しての指導を継続する。 ・1学期末に全学年でQUアンケートを実施。結果や日常の観察を基にして教育相談員と連携しながら気になる生徒に対応している。	C	・1年生は10月10日（水）～12日（金）に東部地区事業所でビジネス体験実習を実施予定。これまでに身に付けた学びを実践する機会とする。 ・2年生は10月10日（水）～12日（金）に東京方面への研修旅行を実施。日本を代表する企業での見学・研修をとおしてビジネスの最前線を体験し職場で求められる知識や資質を深く理解する。 ・端正な身だしなみと節度ある行動、場に応じた振舞を常に心がけることの意義と目的を繰り返し伝える。挨拶をすることの意味を理解させながら指導を継続する。
	【自ら考え、判断し、行動できる】 ・規範意識、人権意識が高く、秩序だった言動ができるとともに、周囲や集団のために貢献する姿勢が身についている。			・生徒自身が鳥商生としての誇りを持ち、自分たちで学校を活性化する意欲を高める取組を実施する。 ・学校行事、学年行事など学校、学年、クラス単位で取組む活動において、各自が当事者意識をもって参加する意識を高める。 ・学校生活アンケートを継続して実施する。 ・QUアンケートを実施するとともに、日々の観察の中で気になる生徒については教育相談員と連携しながら対応していく。		B	・学年、学校全体で取組む行事だけでなく日常生活の中でも生徒一人ひとりが学校の活性化にどう貢献できるか考えさせる。 ・遅刻指導を継続して行う。 ・学校生活アンケートを実施する。 ・教育相談員と生徒情報を共有し気になる生徒に引き続き丁寧に対応していく。必要に応じて外部機関とも連携する。
2. 望ましい職業観・勤労観を身につけ、進路実現に向けて努力する	【望ましい職業観、勤労観を身につける】 ・3年間を通した効果的な体験的活動によって、自立・自律のための実践力や応用力の育成が行われている。	・キャリア教育全体計画に基づく体験活動を予定どおり実施。1年生ビジネス体験実習（10月11日～13日）、2年生研修旅行（同期間中）、3年生第24回鳥商デパート（12月2日、3日）を中心にそれぞれの活動について事前指導、事後学習を含めて実施できた。就職、進学に関して卒業生、外部講師を招いての講演会、マナー指導、面接指導なども実施し進路決定に役立った。 ・自己表現学習プログラムを計画に沿って実施。各種講演会においては謝辞を生徒代表に行わせた。3年生に対しての論文指導、全職員での面接指導を実施。就職内定、進学合格とも100%である。1，2年生ではSHR時に1分間スピーチを行い、自分の意見を多人数を前に発表する経験を積ませた。 ・検定週間を設け計画的に補習を実施。3年生の全商検定1級取得状況は3種目以上が7人（35人）であり取得率は41.6%（52.5%）、1級未取得者は7人（3人）。（　）は一昨年度。 ・夏季休業、冬季休業中に全学年で商業科目の補習を実施。3年生は進学希望者を対象に普通教科の平日補習を実施。 ・2年生進学希望者対象の勉強セミナー（8月1日，2日）、全学年対象の公務員セミナー（8月1日～3日）を実施。 ・1年生対象に4年制大学見学会（12月5日関西大学、大阪経済大学）を実施。 ・就職希望者、進学希望者ともに全員が進路決定できた。	・各学年において、キャリア教育に関する体験活動が体系的に計画され、実施されている。 ・自己の社会生活、職業生活に結びく進路選択がなされている。 ・自己の進路目標の実現に資する各種模擬試験、実務検定試験等に意欲的に取り組んでいる。 ・各種模擬試験、実務検定試験等の受験への支援が計画的に実施されている。 ・社会人として求められるコミュニケーション能力、自己表現力の基礎が身についている。 ・就職希望者内定率、進学希望者合格率ともに100%である。	・平成30年度キャリア教育全体計画に従って事業、行事を実施する。実施後は振り返りをさせる。 ・自己表現力を高めるために必要な知識量（語彙力、社会事象についての知識など）を増やす。 ・3年生への面接指導、小論文指導を継続。	・全体計画に従って予定したほぼすべての体験事業、行事が実施できた。実施後の振返りをとおしての成長を期待したい。 ・自己表現力育成プログラムを継続して実施中。今年度は挨拶も表現力のひとつととらえプログラムに加えた。3年生への自己表現力育成講演会を実施。 ・3年生への小論文、面接指導は全職員で取組んでいる。9月末段階で就職内定、進学合格ともほぼ100%である。	B	・キャリア教育全体計画に従って事業、行事を実施する。事前、事後の指導も含めて実践力の向上を目指す。 ・自己表現力育成プログラムを計画に沿って実施。講演会の謝辞を生徒に行わせる。 ・3年生への小論文指導、面接指導を継続して実施。
	【進路実現に向けて努力する】 ・体系的計画的なキャリア教育によって、将来の社会生活、職業生活に結びつく進路選択が行われている。 ・進路実現に資する模擬試験、実務検定試験等に積極的に取り組んでいる。			・検定週間を設定し検定補習を計画的に実施。 ・長期休業期間中の補習（商業科目を中心に）を継続。 ・3年生進学希望者への平日補習（普通教科）を継続。 ・公務員セミナー（全学年対象）、2年生勉強合宿、1年生4年制大学見学会を継続して実施。 ・鳥取大学と連携して4年制大学進学希望者への進学指導を実施する。	・9月に英語検定週間を設けて補習を実施した。9月末現在の時点で3年生の全商1級3種目以上取得者は38人（51），2種目が64人（54人）である。（　）は昨年度同期。 ・全学年で夏季休業期間中に商業科目を中心として補習を実施。 ・3年生の進学希望者（大学、看護系）への希望者模擬試験を実施。 ・公務員志望者（全学年）へは8月6日（月）～8日（水）に公務員セミナーを構内で実施。外部より講師を招いて実践的な学習を行った。 ・4年制大学進学希望者に対し、鳥取大学入学センターの協力を得て研修会を鳥取大学で開催した。 ・2年生勉強合宿は希望者少数のため実施できなかった。	C	・後期の検定試験に向けて検定週間、検定補習を計画して実施する。全学年で1級取得を目標に指導を継続する。 ・1年生の大学進学希望者を対象に12月3日（月）に大学見学会を実施する。 ・就職内定者を対象に直前セミナーを外部講師を招いて実施する。 ・勉強合宿は対象学年を検討する。
3. 健康に留意し、学力向上と部活動に励む	【健康に留意する】 ・基本的生活習慣の大切さをよく理解し、運動・食事・睡眠に留意した規則正しい生活を送っている。	・77%の生徒が運動・食事・睡眠を意識した規則正しい生活を送っており、80%が授業に集中できている。（学校生活アンケート） ・就寝が午前0時以降の生徒が38.7%（健康に関するアンケート）あり、睡眠不足により体の不調を訴える生徒には個別指導を行った。 ・保健だよりを発行し生徒・保護者に時期に応じた健康管理の啓発を実施。 ・健康教育LHRを2回実施し健康管理に対しての意識を高める機会を設定。 ・O限体育を水曜、金曜に実施。 ・体育祭（7月）で1年生全員による商高体操を披露。また全校強歩大会（10月）を実施。 ・新体力テストで県平均を下回る項目は16（一昨年度と同数）であった。	・欠席、遅刻をしないで、運動・食事・睡眠を意識した規則正しい生活が送れている生徒が80%以上である。 ・適切な健康管理が行われており、自主的な運動を心がけ体力向上に努めている。 ・生活リズムが確立され授業に集中できている生徒が80%以上である。 ・商業科目、普通教科科目ともバランスよく学習し、定期考査期間を除く家庭学習時間が1日平均60分以上である。 ・部活動に全生徒が加入し学習との両立に努めている。 ・部活動が知・徳・体のバランスのとれた人格形成の場になっており、優勝を目指した努力が積み重ねられている。 ・各部活動が互いに切磋琢磨し、全国大会出場の部活動が10以上となっている。	・学校生活アンケート、健康に関するアンケートを継続して実施する。 ・生活習慣について個別指導を行う。 ・健康教育LHRを2回実施する。 ・O限体育、商高体操、強歩大会など体育行事を継続して実施する。 ・体育実技でも基礎体力を高めるメニューを継続して取り入れる。	・1学期末に生活習慣を把握するため健康に関するアンケートを実施。朝食の摂取状況や就寝時間を把握し健康指導に活用している。 ・生活リズムの乱れから体調を崩して保健室に来室した生徒への個別指導を行っている。 ・熱中症・食中毒予防、感染症予防の啓発に保健だよりを発行している。 ・生徒保健委員会主導で9月20日（木）に健康教育LHRを実施。今年度は精神面での健康増進をテーマに平田久子教育相談員に講演いただいた。 ・体育活動、行事を計画どおり実施できた。	B	・生活習慣の整っていない生徒への個別指導を継続。 ・感染症予防など健康増進、維持のための啓発活動（保健だより発行、保健委員会の校内放送による広報など）を継続。 ・学校生活アンケートを実施する。 ・QUアンケートを1，2年生対象に実施する。 ・強歩大会を10月19日（金）に実施する予定。
	【学力向上に努める】 ・主体的に授業に取組み、秩序のある学習態度が保たれている。 ・進路実現を意識した自宅学習が、継続的に積み重ねられている。	・6月1学期期末考査前1週間の自宅学習時間（1日あたり）は、1年143分（141分）、2年162分（168分）、3年156分（152分）であった。10月平常時の自宅学習時間は1年49.1分（40.2分）、2年44.1分（37.8分）、3年48.1分（37.6分）とやや向上した。（　）は一昨年度同期。 ・11月15日（水）に授業改善に関する研修会及び公開授業を実施。簿記、保健、コミュニケーション英語Ⅰを授業公開。 ・12月12日にエキスパート教員公開授業（商業）を実施。		・年間2回の自宅学習時間調査を継続する。 ・期間を限定しながら毎日の学習時間と内容を記録させる取組を計画する。 ・学習内容の定着に関して授業改善研修会及び授業公開を実施する。 ・各教科で研究授業と研究協議を実施する。	・1学期期末考査前1週間の自宅学習時間を調査。昨年同時期より各学年とも大きく時間が減った。1日平均で1年143分→113分、2年162分→112分、3年156分→106分。 ・前期授業アンケート結果から、各学年とも復習出来ていない点が課題。 ・一部のクラスで毎日自学学習時間を記録し振り返りをしている。 ・9月11日（火）に2年目研修を本校で開催。商業科中尾教諭、森恭平教諭が研究授業を実施。	C	・自宅学習の内容を具体的に指示し授業と関連させる。課題の量も適正かどうか再検討する。 ・10月22日（月）からの1週間自宅学習時間調査を実施。平常時の学習状況を把握する。 ・11月12日（月）に外部講師を招いて授業改善に関する研修会を実施する。
	【部活動に励む】 ・すべての生徒が部活動に加入し、優勝を目指した努力を積み重ねることで、人間的に成長している。	・前期授業アンケートで「予習を行っている」とする回答が1年14.2%(−2.6)、2年12.5%(+0.7)、3年7.4%(−9.4)、「復習している」との回答は1年23%(−6.6)、2年19.3%(+2.3)、3年20%(+5.5)となっている。（　）は一昨年度数値との比較。後期授業アンケートの結果では「予習をしている」との回答が1年39.9%、2年12.2%、3年21.0%、「復習をしている」では1年46.6%、2年18.2%、3年28.4%となった。1年生の商業系科目の自宅学習が増加している。 ・部活動の加入率は99.4%。いずれの部も中国大会、全国大会を目指して熱心に活動したが、全国大会出場の部活動は8（一昨年度は9）にとどまった。		・部活動の全員加入を継続。各種大会での上位成績、中国大会、全国大会の出場を目指しながらも人格形成の場であることを第一とする。 ・学習と部活動との両立をはかり、自宅での学習時間を確保しつつ活動する。	・ほぼ全ての生徒が部活動に加入し活発に活動している。複数の部を兼部している生徒も多い。9月末までで運動部、文化部合わせて7部活動が全国大会に出場している。 ・帰宅時間が遅く自宅での学習時間が確保できない生徒もいる。	C	・部活動への全員加入を継続指導する。 ・部活動への支援を継続しつつ、自宅での学習時間も確保できるよう活動時間を時期に応じて変更する。
4. ビジネス社会及びグローバル社会に必要な力を身につける	【社会人に必要な力を身につける】 ・笑顔の挨拶、時間厳守、正しい制服の着こなし、丁寧な言葉遣いができる。	・定期的な服装頭髪指導に加え、日常的に学校生活全般にわたって挨拶、身だしなみ等、指導を行った。全校集会等でも注意を喚起。 ・ほとんどの生徒は場に応じた適切な言葉遣い、相手を配慮した言動が取れている。 ・学校評議員会、学校関係者評価委員会を3回実施した。第1回の提言を受けて、学校活性化事業（先進校訪問）を本年度独自事業で実施する予定。 ・マナーアップさわやか運動をPTAと協力して2回実施。	・社会人として身につけておくべき挨拶の仕方、場に応じての適切な言葉遣いができている。 ・相手に好感を与える制服の着こなし、高い規範意識、人権意識に基づく言動が取れている。 ・授業や様々な行事の開始時間に対し、余裕を持った行動が実践できている。 ・鳥商教育の集大成である第25回鳥商デパートにおいて、鳥商での生活全般で習得したビジネスの知識、技術を実践、応用できている。 ・図書の貸し出し冊数が増加している。 ・生徒がグローバル社会を実感できるよう留学生、海外からの訪問団を積極的に受け入れるなど異文化に触れる機会を設定している。 ・全商英語検定の取得状況が昨年度より向上している。	・学校生活のあらゆる場面で指導を継続。職員全体の意識を細かなところにも向ける。 ・学校評議員会並びに学校関係者評価委員会を開催し、各方面から意見を求め学校改善に活かす。 ・PTAと協力してのマナーアップ運動等を実施する。	・定期の服装頭髪指導だけでなく、学校生活全般で頭髪・身だしなみの指導を実施しているがまだ改善の余地はある。 ・6月27日（水）に第1回学校評議員会・学校関係者評価委員会を開催し各委員から意見、提言をいただいた。先進校視察はよい事業との評価。 ・4月、9月にPTA生活指導部と協力してマナーアップ運動を実施。	B	・身だしなみ、頭髪、挨拶などマナー指導はビジネス教育でも行う。端正な姿が生徒自身の評価につながり、学校全体の評価につながることを意識させる。 ・第2回学校評議員会・学校関係者評価委員会（授業参観も含む）を11月5日（月）に開催する。
	【ビジネス実践力を向上させる】 ・授業や体験的活動等によって習得した知識や技術を、実践力・応用力の育成に活かすことができる。	・全校集会等での集合状況は概ねよいが、授業前の態勢作りを徹底する必要がある。 ・第24回鳥商デパートを開催。全学年が参加し保護者にも協力いただいたが売り上げ13,089,673円、来場者数9,791人、お客様満足度96.9%と過去最高を記録した。2月15日には成果発表会を開き県教委指導担当及び協力企業の方に講評をいただいた。 ・2月末時点での図書貸し出し冊数は延べ2,712冊。一人あたりにすると5.1冊と一昨年度同期より増加した。授業での利用時間数は238時間（一昨年度同期は95時間）となり大幅に増えた。		・集会指導、集合指導を行い時間前の集合を習慣づける。 ・授業開始前の態勢作りを徹底する。 ・新着図書の紹介を継続し、面接指導、小論文指導、授業での書籍活用を促進する。	・4月全体集合指導で集合・整列の形態について説明。以降の全校集会、全体集合で実施。概ねよいが列を自分たちで整えられるまで至っていない。 ・チャイムと同時に授業が開始できる態勢づくりに改善の余地がある。 ・第25回鳥商デパート経営委員会を発足させ9月28日（金）に設立総会を開催した。準備を進めているところ。 ・9月末時点での図書貸出冊数は延べ1,825冊。一人あたり3.3冊（昨年度同期3.5冊）。授業での利用時間数は151時間（昨年度同期118時間）。	B	・全体集合指導を継続する。生徒自らが迅速に集合するようお互いに働きかけられるように促す。 ・教室整備を含の授業規律をより一層徹底する。 ・11月に鳥商デパートマナー講習会を実施するなど経営委員会主体で準備を進める。 ・図書館利用を引き続き促進する。特に1，2年生。
	【グローバル感覚、語学力を磨く】 ・異なった意見に対する寛容の精神と、自分で考え伝える力を兼ね備えた自己表現力が身についている。 ・グローバル感覚、英語運用能力が向上している。	・新たな交流先は検討途中。 ・韓国江原道平和教育フェスティバルに生徒2名が参加。 ・鳥取県−モンゴル中央県交流20周年記念事業により生徒5名職員1名がモンゴル中央県を訪問。一昨年度来校したフムーン総合学校の生徒と交流を行った。 ・全商英語検定1級取得者数は8名（一昨年度11名）であったが、2級の合格者数、合格率は上昇した。（2級合格者41→105、合格率15.8%→30.9%） ・1年生コミュニケーション英語Ⅰで習熟度別授業を実施。		・英語圏の交流先について各所に協力を仰ぎながら検討する。 ・海外からの訪問団受け入れ、海外派遣を積極的に推進。 ・全商英検1級、実用英語検定2級以上の受検を勧めつつ対策を実施。 ・習熟度別授業を活用して基礎知識の定着のための学習と発展的な学習を平行して行う。	・アメリカ合衆国バーモント州エセックス高校との交流を計画している。来年4月に鳥取県・バーモント州青少年交流事業（鳥取県国際交流財団主催）で来県するエセックス高校生徒を鳥商で迎えることを計画中。 ・鳥取県・バーモント州青少年交流事業に本校1年生が参加する予定。 ・9月実施全商英検合格率は1級11.8%（2.9%）、2級9.0%（15.6%）、3級78.5%（84.0%）であった。 ・1年生コミュニケーション英語Ⅰでの習熟度別授業を継続実施。	C	・エセックス高校担当者と交流計画について協議するとともに来年度生徒受け入れ費用と再来年度の事前協議のため担当者派遣費用を予算要求する。 ・海外交流事業参加への積極的な応募を勧める。 ・12月実施全商英検での1級受検、実用英語検定の準2級以上の受験を勧めつつ、生徒の英語運用能力を向上させる。 ・習熟度別授業の継続を県教委に依頼。

評価基準　A:十分達成（100%）　B:概ね達成（80%程度）　C:変化の兆し（60%程度）　D:まだ不十分（40%程度）　E:目標・方策の見直し（30%以下）